知財情報を分析して投資判断や開発戦略に役立てる！

会社名　河村産業株式会社
所在地　三重県四日市市西大鐘町330
従業員　250名
資本金　8000万円
売上高　73億円（2021年度）
業　種　電子部品・デバイス・電子回路製造業

支援を受けるにあたって掲げた事業上の目標

Before

- オリジナリティのある高度な加工技術により、多くの製品群を有する。
- 社内で特許調査を行っているが、取り組みの方向性を検討・判断する情報に昇華しきれていない。そのため、開発済み製品に対する、さらなる投資判断や開発戦略を決め切れない状況にある。

支援を受けてできるようになったこと

After

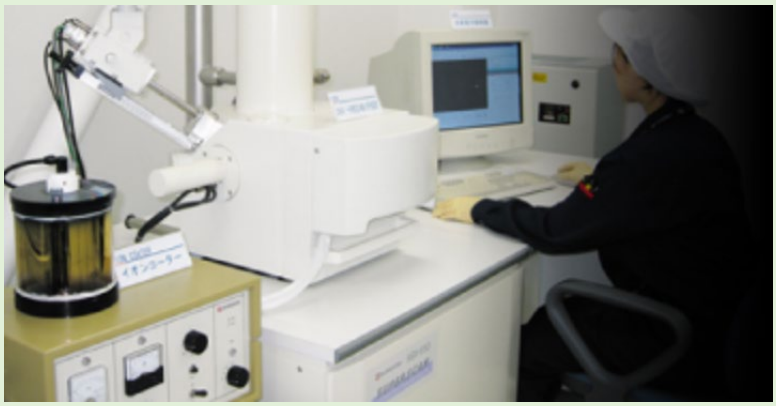
- 特許動向は見せ方によっては大いに参考となることが内部関係者に浸透し、経営層や営業部門との連携イメージが醸成されてきた。
- IPランドスケープによる分析に基づき、経営層が投資有無の判断を下せた。また、分析過程で収集した情報は、開発の方向性を検討する情報としても有用と実感。

今後の事業展開の展望

Future

- 市場分析に資する情報として、営業情報や展示会等を通じた技術・製品情報も加味することで、IPランドスケープの有用性や精度を高めていく。
- 他の製品・分野でも継続的にIPランドスケープを行うことを社内に根付かせるために、組織体制の在り方について検討が必要。

重点支援を受けた事業や商材



【出典】河村産業株式会社ホームページ
https://www.kawamura-s.co.jp/

同社は絶縁加工・電子材料・微細加工に関する技術領域の事業を展開してきている。今後も、複数の投資分野が想定される中、IPランドスケープの手法によって知財情報や市場情報を収集・分析した。

整理した情報は、同社の事業戦略の方向性を判断する上で有用なものとなったほか、同社の開発戦略や知財戦略を練り上げる上でもIPランドスケープが有用であることを実感された。

重点支援を実施するにあたって整理した課題

取り組んだ課題	課題に取り組んだ背景・理由
IPランドスケープ手法の活用	社内知財部門で特許調査はできているものの、クリアランス調査が主となっている傾向にある。経営判断の材料を提供するために、知財情報・市場情報の収集・分析の在り方を改善できる余地が存在（IPランドスケープを習得できる余地が存在）。
事業戦略の検討	同社の特定製品に対して設備投資をするか悩んでいた状況にあったものの、判断の決め手に欠ける状況だった。
知財戦略の検討	IPランドスケープの手法を習熟していくことにより、開発の方向性を検討するための様々な情報を入手できるようになる余地が存在していた。 （例：技術が伸びている分野、新規の市場・用途、特許で良いポジションをとるための手法、プレーヤ等のマクロ分析等）

重点支援を通じて受けた支援と支援を通じてできるようになったこと

支援を受けた事項	支援を通じてできるようになったこと	活用専門家
IPランドスケープ手法による市場分析	• 従来の特許調査と比較して、より広範な調査を行うための手法を身につけた。また、特許情報と非特許情報を往復しつつ情報の収集・分析を行うことで、より有用性の高いレポートを作成することができるようになった。	知財戦略専門家 知財調査専門家
IPランドスケープの結果に基づく事業戦略の検討	• 設備投資判断に資する資料を作成することについて、実施経験を積むことができた。 • IPランドスケープによる分析に基づき、経営層が投資有無について決断できた。	知財戦略専門家 知財調査専門家
IPランドスケープの結果に基づく知財戦略の検討	• 特許動向が他部門にとっても参考となることが社内浸透し、経営層や営業部門との情報連携が進展した。	知財戦略専門家 知財調査専門家
アクションプランへの落とし込みとマイルストーン設定	• 同社の優位性や市場性について判断しきれない事項も存在することが明らかになったため、継続的に技術動向や市場性をフォローすることで、随時、投資の判断材料に役立てていくこととした。	知財戦略専門家

支援チーム紹介

リーダー専門家： 知財戦略専門家　加藤泰助
活用専門家： 知財調査専門家
知財総合支援窓口担当者：三重県知財総合支援窓口　近藤直広・杉山早実
PO（ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑｵﾌｨｻｰ）： 中泰広